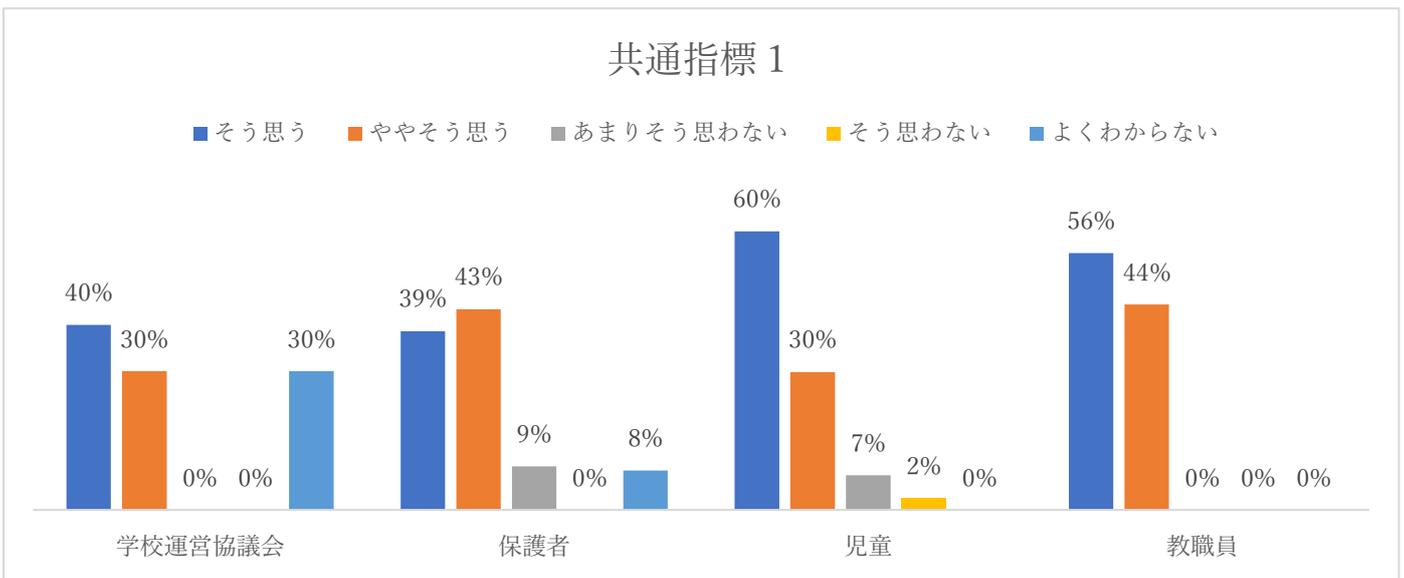


## 令和7年度学校評価(2学期末)評価結果概要

令和7年度学校評価の四者(学校運営協議会・保護者・児童・教職員)によるアンケート結果及び考察について、次の通りご報告いたします。

### I 共通指標の集計結果及び考察

#### 共通指標1 わかりやすい授業や個に応じた授業が行われているか

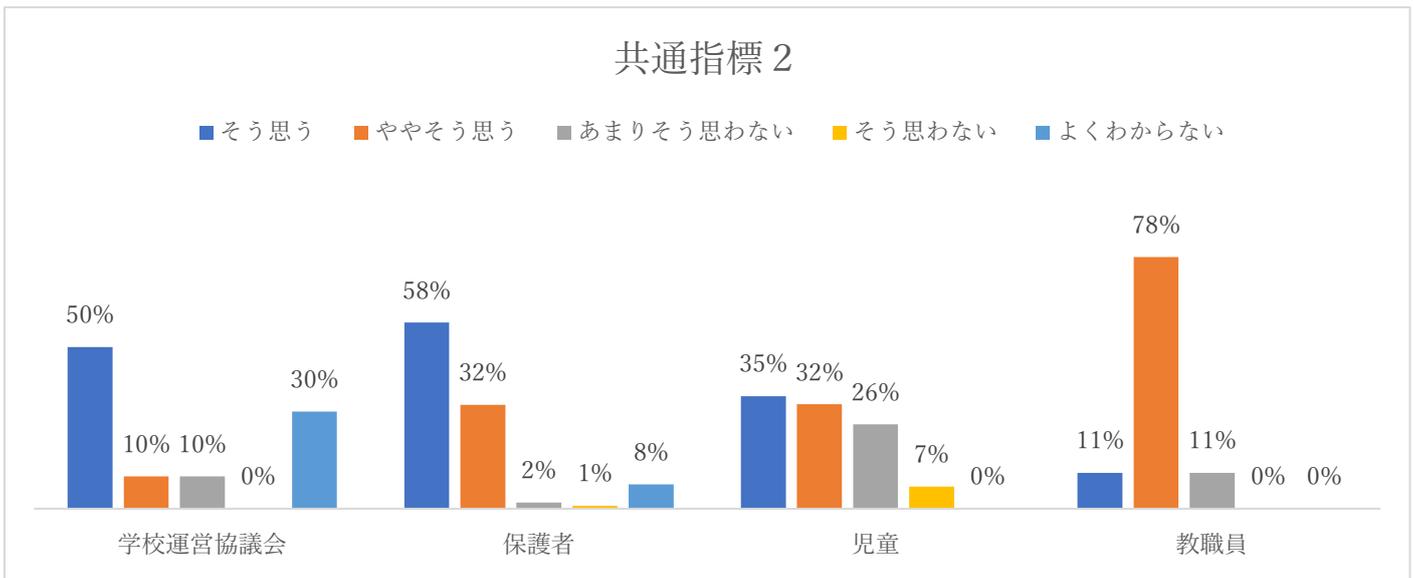


#### 【考察】

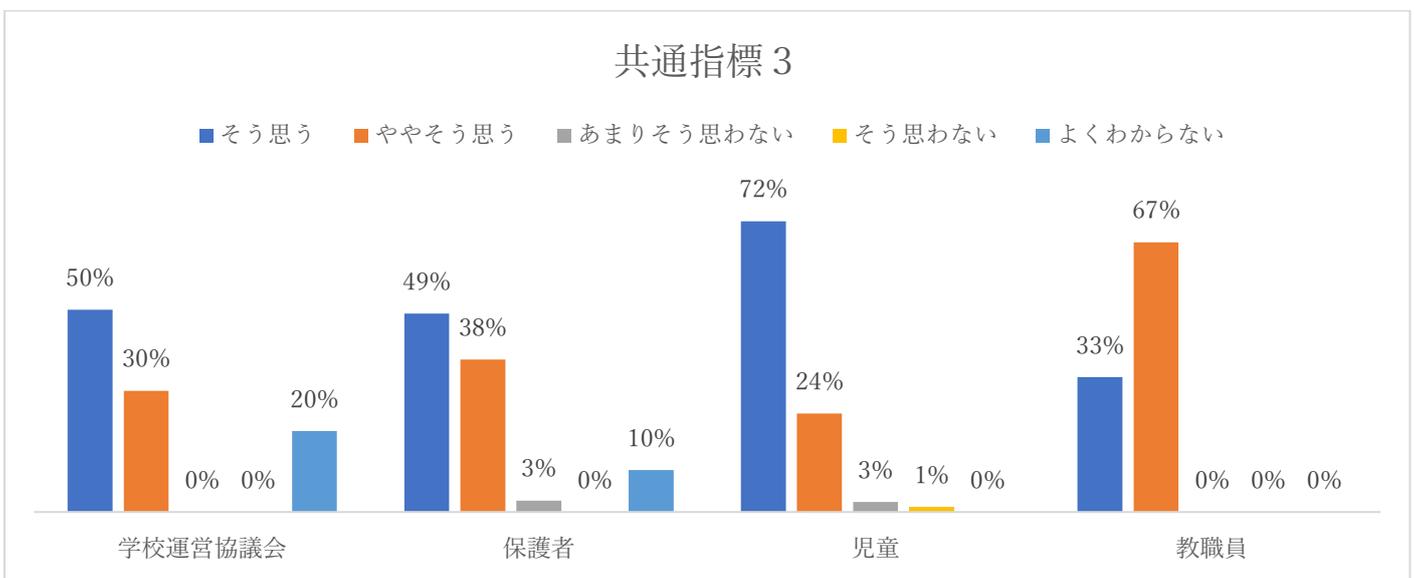
児童及び教職員の90%以上が肯定的な回答を示したが、保護者の肯定的な割合が82%と低くなっているため、今後もさらなる授業改善・授業改革を進めていく。

→授業づくりの基盤としての「ユニバーサルデザインの意識化」授業づくりの基本としての「焦点化・イメージ化・視覚化」の上に成り立つ「子どもが主語の4つの共通取組場面(見通す・決定する・協働する・振り返る)」の実践

共通指標2 児童が、話し合い活動や表現活動を通じて自らの考えを深めたり、広げたりする授業が行われているか



共通指標3 児童が、自分で考えた手立てで課題解決に取り組む場面が設定された授業が行われているか。



【考察】

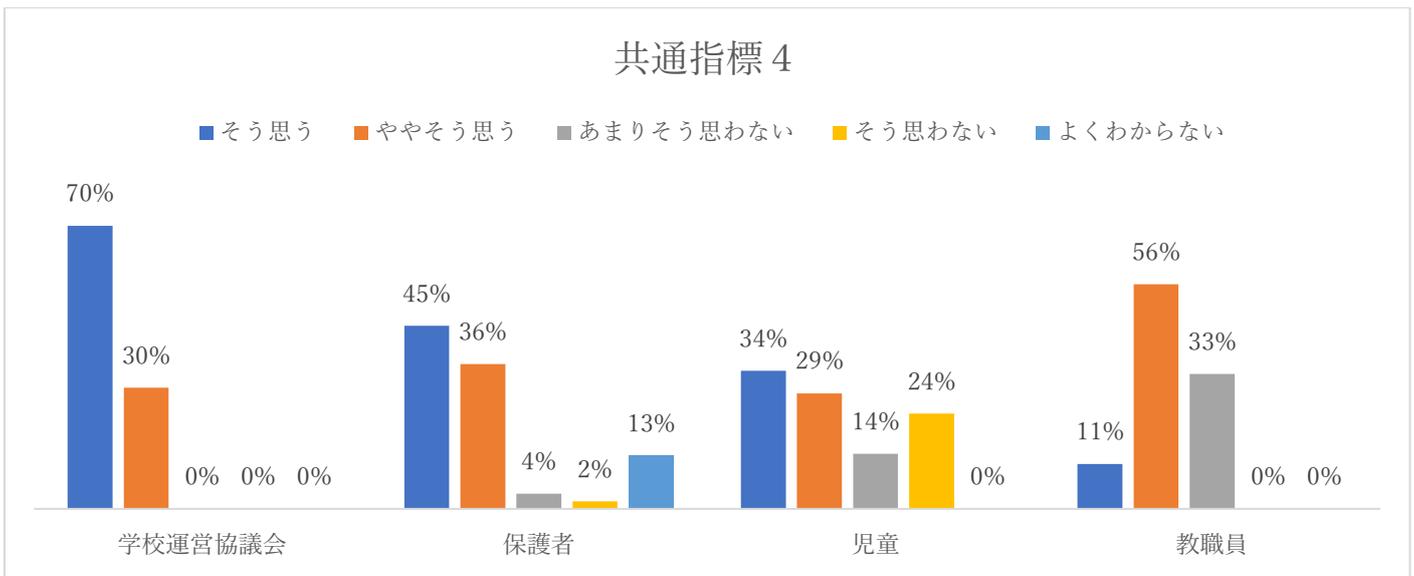
共通指標2については、保護者・教職員のおよそ 90%が肯定的な回答を示した。児童の肯定的な回答の割合が児童67%となっており、児童自身の視点からの改善が求められる。

共通指標3については、児童・保護者・教職員とも90%以上が肯定的な回答を示していることから、こちらについてはある程度実践できていると判断する。

→学年の実態に応じて、各教科・道徳・特別活動・総合的な学習の時間等を通じて、話し合ったり発表したりする授業を実施し、他者の意見や考えを取り入れることでの、自分の考えを深めたり広げたりする力の育成。

→学校生活全般における、児童自身の選択・決定を尊重した教育活動の推進

共通指標4 授業のほか様々な教育活動でタブレットを活用し、教育活動の充実に努めているか。

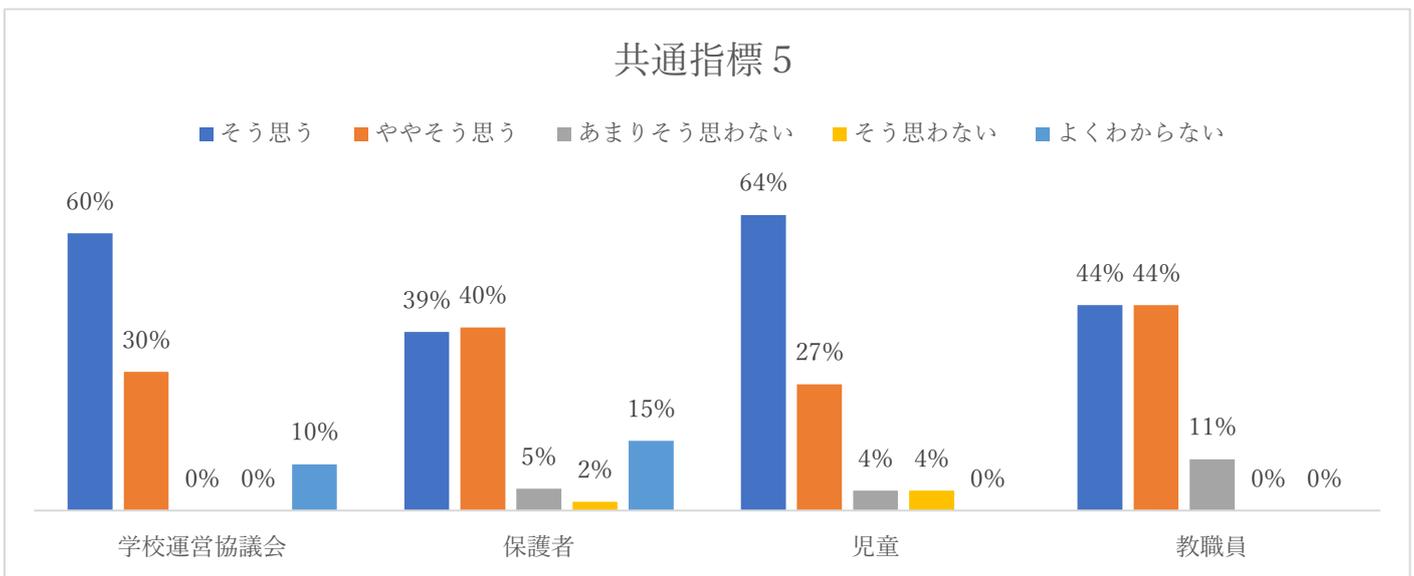


【考察】

保護者の 91%が肯定的な回答を示した。教育活動におけるタブレット活用については、ある程度認知され、教育活動に反映されていると考えられる。肯定的な回答をした児童の割合が63%と低くなっているが、これは、まだほとんどタブレットを使用していない 1 年生を含めた割合であり、3年生以上に限定すると、およそ80%が肯定的な回答を示している。

→日常的な持ち帰りの推進

共通指標5 地域と連携協働し、地域の人材・施設を適切に活用した教育活動の充実に努めているか。



【考察】

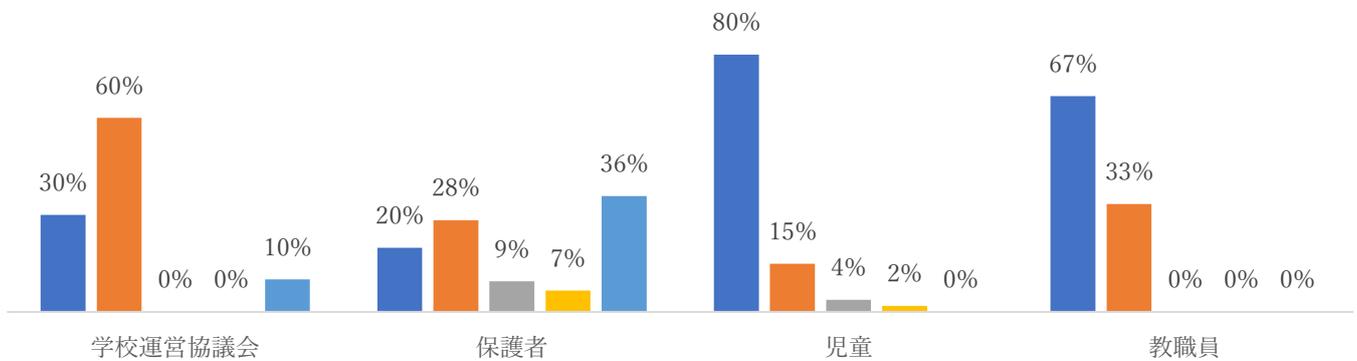
保護者・児童・教職員とも、80%以上が肯定的な回答を示している。4年生以上の児童に限れば、この割合はさらに高くなる。「あまりそう思わない」と回答した保護者が 15%おり、保護者・地域と連携した学びを一層推進し、理解と認知を高めていくことが必要である。

→日常の学習における地域と連携協働した学びの模索

共通指標6 いじめの未然防止、再発防止に努めているか。

共通指標 6

■ そう思う   ■ ややそう思う   ■ あまりそう思わない   ■ そう思わない   ■ よくわからない



【考察】

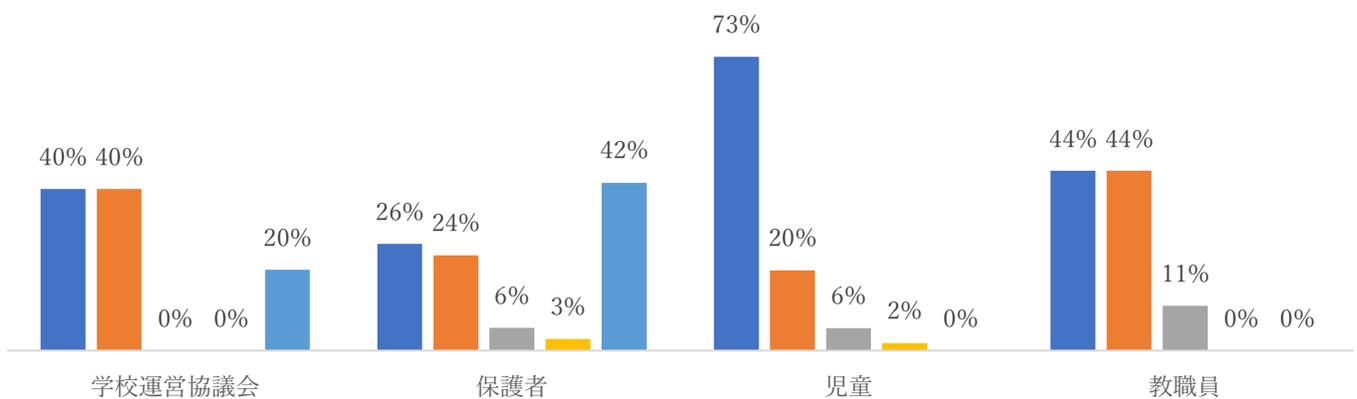
教職員全員が肯定的に回答した反面、保護者の 16%、児童の 6%が十分ではないという認識を持っている。また、保護者の 36%が「よくわからない」と回答していることから、学校の取組が十分伝わっていないことがわかる。

→本校におけるいじめの未然防止・早期解決へ向けた取組の周知・徹底

共通指標7 児童が安心できる学校づくりや居場所づくり、不登校児童への支援に努めているか。

共通指標 7

■ そう思う   ■ ややそう思う   ■ あまりそう思わない   ■ そう思わない   ■ よくわからない



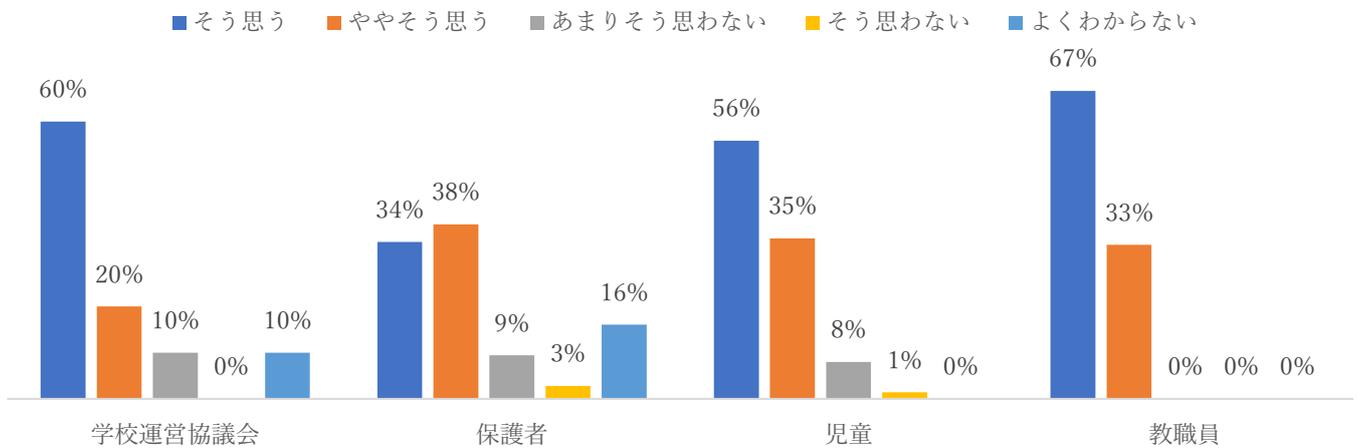
【考察】

児童・教職員のおよそ 90%が肯定的な回答を示した。しかし、保護者の 42%が「わからない」と回答したことから、いじめ対応同様、学校の取組が保護者に十分伝わっていないことがわかる。これらの事案について、児童のプライバシーに配慮しながら、学校の取組を保護者に知らせるとともに、児童の心理的安全性の向上と、児童が担任・教室以外でも大人とつながったり安心したりできる場の設定充実に努める。

→校内教育支援センターの充実、スクールカウンセラー等外部機関との連携強化

共通指標8 思いやりや礼儀、公正などを大切にする心を育む教育に努めているか。

共通指標 8



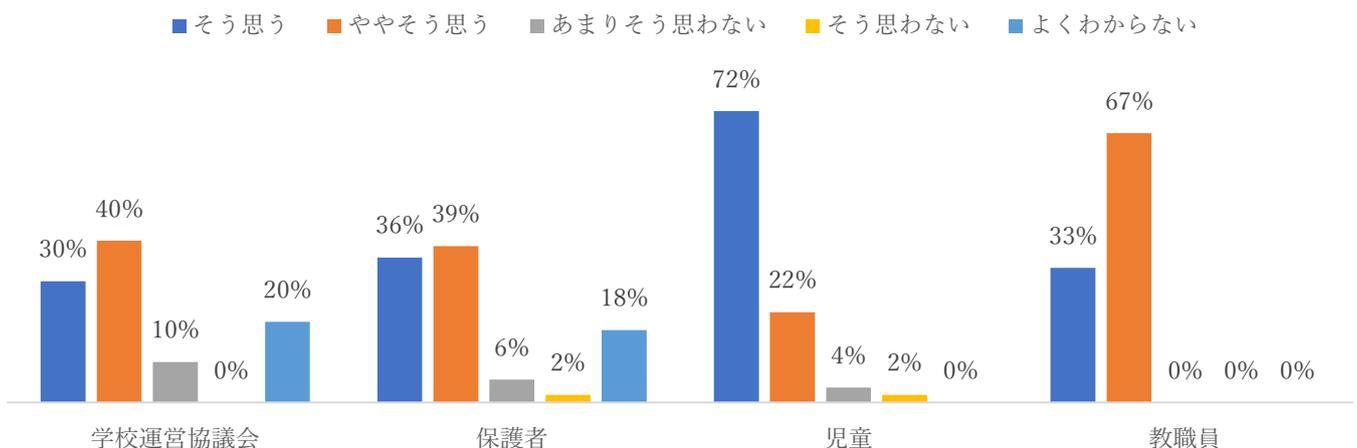
【考察】

児童・教職員の90%以上が肯定的な回答を示しているのに対し、保護者肯定的な回答は70%程度にとどまった。引き続き、すべての教育活動を通じ、多様性の理解と尊重を基盤とする、思いやりの心や生命の尊重など、児童の豊かな心の育成を目指す。

→道徳の時間を基盤とする、学校の教育活動全般を通じた道徳教育の推進、地域活動への参加を通じたこころの教育の充実

共通指標9 防災訓練や防犯、薬物乱用、インターネットの利用等の学習活動を適切に実施し、危機管理の充実に努めているか。

共通指標 9

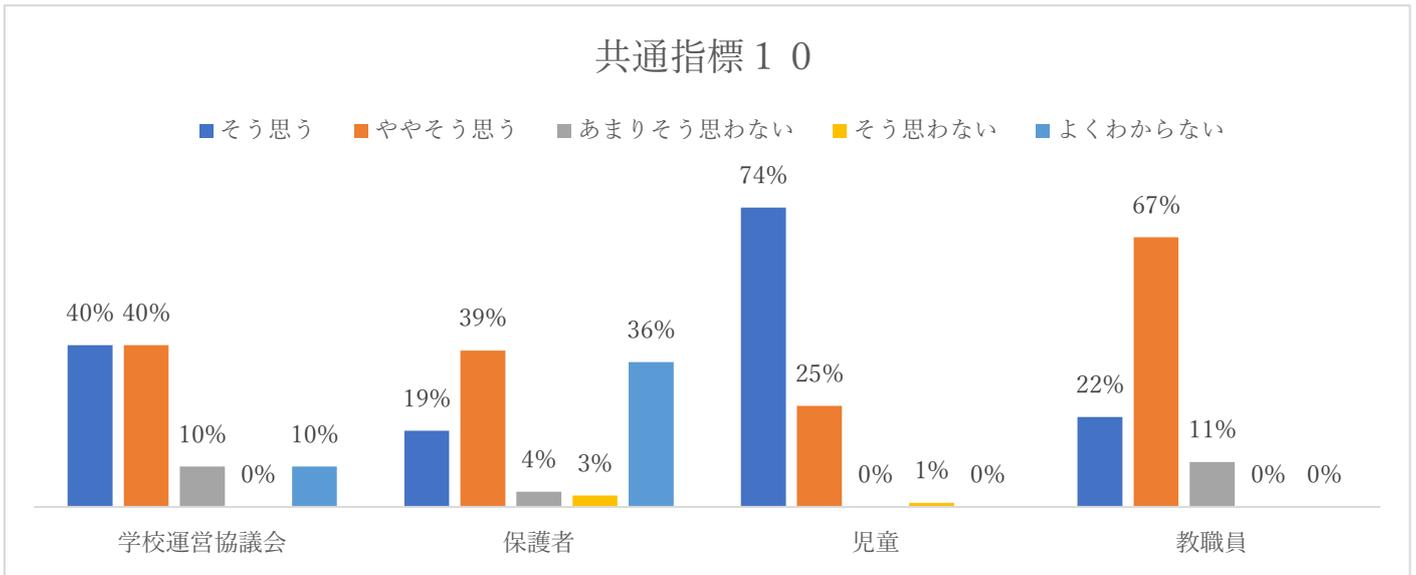


【考察】

共通指標 8 と同様に、児童・教職員の90%以上が肯定的な回答を示したのに対し、保護者の肯定的な回答は75%にとどまっている。「わからない」と回答している保護者を減らすためにも、安全教育のさらなる充実を目指すとともに、取組を周知する必要がある。

→日常的な防犯意識の向上につながる安全教育の推進、とりわけ、インターネット利用に関する知識の啓発と指導の充実

共通指標10 生命や性に対する正しい理解を促すための学習活動を適切に実施しているか。



【考察】

児童・教職員のほとんどが肯定的な回答を示しているのに対し、保護者の36%が十分ではないと回答した。生と性の教育に関する学校からの発信が十分ではなかったためと推測している。

→保護者に対する本校、本エリアにおける「性に関する指導」についての情報提供の推進及び、授業参観の機会の確保